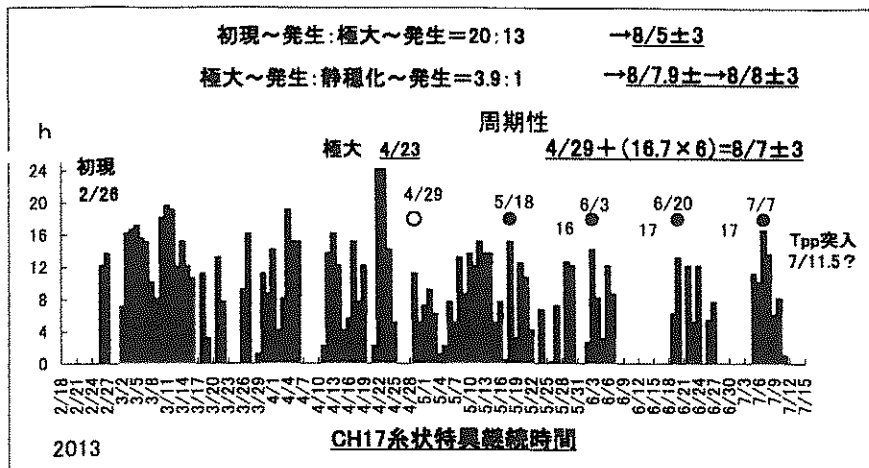


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報

4/24極大に対する前兆終息(静穏期突入)の可能性「CH17特異」→正しければ 8月7日or 8日発生の可能性支持



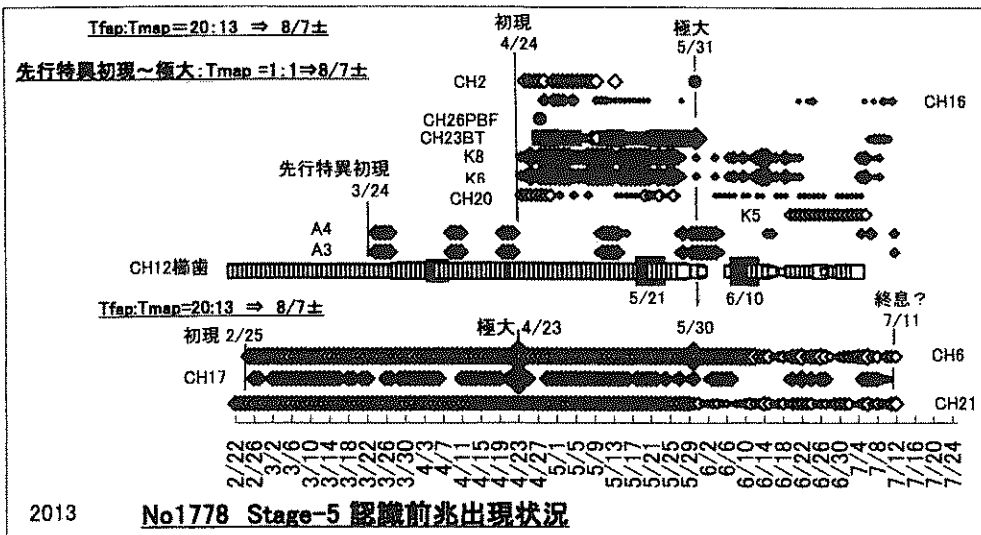
No.1778=長期継続特殊前兆の続報です。
No.2392観測情報で、現在の第5ステージ前兆群の時間的変化解釈から、示される時期は8月上旬であることを報告し、No.2395(7/1配信)観測情報以降、示される時期は8月7日±であることを報告して参りました。

仮にこれまでの前兆の認識理解が正しく8月7日±時期を示すのであれば、二つ認識される極大=4月24日と5月31日の各々について計算される前兆終息予測を報告致しました。
各前兆は5月31日認識極大に対しても出現していると認識されるため、4月24日の極大に対しては、唯一八ヶ岳のCH17糸状特異が静穏化する可能性が考えられてきました。

CH17は左図に示すとおり、2月26日から糸状特異出現が継続的出現を開始し4月23日に極大認識され、5月31日前後には極大は認められません。

4月23日極大後は左上グラフの●印のとおり周期的な出現を示し、7月11日の11時20分～12時00分までの40分間出現し、以降本日現在まで再出現はありません。

仮に、上記の出現が最後に静穏期に突入した場合には、 $T_{map}:T_{pp}=3.9:1$ 経験則より、極大=4/23 終息=7/11.5より、発生日=8月7.9日が計算されます。発生日は、何度も長期に渡り出現した基線幅増大BTの日々の出現開始、終息時刻から、午前9時前後又は夕刻6時前後の可能性が示唆されています。このため、7.9日=7日21時半±の計算結果からは、8日の可能性も否定できません。(左下へ続く)



現在までの第5ステージ前兆群の認識理解からは、
4/23極大に対し、初現=2/25 ⇨ 8月7日±推定
5/31極大に対し、先行特異初現=3/24 ⇨ 8月7日±推定
5/31極大に対し、初現=4/24 ⇨ 8月7日±推定
が計算され、8月7日±発生の可能性が示唆されていました。
これに加え、CH17の変化からは、
4/23極大に対し、初現=2/26 ⇨ 8月5日±推定
4/23極大に対し、終息=7/11.5? ⇨ 8月8日±推定
4/23極大後周期性から ⇨ 8月7日±推定
が計算できます。

全体としては、上図-2) 第5ステージ認識前兆出現状況図のとおり、顕著に毎日継続している前兆は、CH21特異、CH6 特異のみで、CH12櫛歯前兆も7/4を最後に本日まで再出現は認められません。K6, K8 特異も顕著な特異も少なくなり、仮に上記のとおり、8月7日～8日頃を示す場合には、全体の前兆として

も(現在継続中又は断続的出現前兆)7月21日～22日頃には静穏化終息し、通常基線に戻る可能性が推定計算できます。

今回報告のCH17糸状特異が今後再出現せず、上記のとおり11日昼を最後に終息し静穏期に入ったのであれば、次の極大5/31に対する前兆終息=7/21±が確認できる可能性があります。これが確認された場合は、表題のとおり8月7～8日±時期に対応地震発生の可能性が示唆されることとなります。但しCH17の再出現等があった場合、7/21±前兆終息が認められなかった場合には、第6ステージに入る等して、実際の地震発生時期はより先となりますので、今後を観測し再考し続報予定。

※公開実験(FAXによる実験観測情報受信) 参加の皆様へは観測情報でご報告しておりますが、HPでは飛び飛びになり、申し訳ございません。また、続報No.31の右段上から五行目のCH9-PBFはCH26-PBFが正しく誤記でした。お詫びして訂正致します。